

令和6年度 印西市民アカデミーだより 第13号

講座15：福祉について学ぶ

11月22日(金)、印西市役所福祉部職員を講師に招いて、市の福祉制度(障がい福祉・高齢者福祉・介護福祉)について学びました。

障がい福祉関係では、はじめに障がい者に関するマークについて学びました。マークの意味を知っていることにより、障がい者に適切な対応が図れることになります。次に、障害者手帳の種類・申請方法について学びました。日常生活や社会生活を送るのに相当な制限を受ける状態にある人は、障害者手帳の対象になります。障がい者には、様々な福祉制度が整えられており、居宅介護や療養介護、自立訓練等の様々な障害福祉サービスを利用することができます。



高齢者福祉関係では、超高齢化社会にどう対応していくかについて学びました。超高齢社会が進むということは、介護が必要な人が増える、認知症の人が増える、支える世代、介護職が不足する等の様々な課題が社会問題化してくることが予想されます。しかしながら、65歳を超えても元気で、仕事や趣味活動、ボランティア活動等の社会参加をして現役で活躍している人たちも多くなっています。社会参加への頻度が高いほど介護予防効果が高まるというデータも出ています。自分自身の生きがい、健康づくりにつながる地域活動に少しでも興味があれば参加してみましょう。

介護福祉関係では、介護保険について学びました。介護保険は、介護が必要になった方が地域で安心して暮らしていくための制度で、介護が必要になったときには、費用の一部(1~3割)を負担することで介護保険サービスを利用できます。

これからの超高齢化社会に向けて、「自分ならどうする!？」という視点で、健康なうちに様々な情報を仕入れ準備しておくことが豊かな老後に繋がることを改めて考える機会となりました。

講座16：市民活動について学ぶ

12月20日(金)、市民活動推進課の職員を講師に招いて「市民活動」について学びました。印西市民アカデミーでは、卒業後、アカデミーで学んだことや体験したことを活かして、市民活動やボランティア活動等に積極的に関わり印西市の発展に寄与するという大きな目標があります。

今回は、①市民活動/NPOとは? ②印西市の取り組み ③ワークショップ「公共サービスは誰が担うべき?~市民と自治体の役割分担について考えよう~」の三部構成で学びました。市民活動とは、市民が互いに協力し、地域社会のさまざまな課題に向かって、主体的・自主的に取り組む、営利を目的としない、開かれた活動(ただし、宗教、政治、選挙活動を除く)のこと。

NPOとは、市民が主体となって継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない民間団体(法人格の有無は問わない)のことです。

近年、市民ニーズの多様化による新しい地方分権社会の創造、複雑化する地域課題に対応するためNPOとの協働による行政サービスの提供が推進されるようになりました。印西市では、市民が安心して市民活動・地域活動ができるように「市民活動保険(市民活動総合保障制度)」を用意しています。

市民活動に関するイメージシンボル

